

大学研究力強化に向けた取組について ～大学研究力強化委員会における主な検討事項等～

1

2019年4月に永岡副大臣TFで策定した「研究力向上改革2019」を発展させ、研究人材・資金・環境の一体改革により、我が国の研究力を総合的・抜本的に強化するため、CSTIにおいて「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」を策定。

2

「第6期科学技術・イノベーション基本計画」も踏まえ、大学の研究力強化を図るため、国公私立大学の研究人材・資金・環境等に係る施策を戦略的かつ総合的に推進。日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成に向けて、大学ファンドを通じた国際卓越研究大学への支援と、地域中核・特色ある研究大学への支援強化による両輪により、研究力の向上を促進。

3

これらの取組のほか、大学ファンドからの支援に先駆けて始まった博士支援の拡充等もあり、研究人材・資金の取組が加速したものの、日本学術会議からも指摘※されているように、大学における研究環境に係る様々な課題にまだ十分に取組めていない。
※「研究力強化－特に大学等における研究環境改善の視点から－に関する審議について」（2022/8/5 日本学術会議）

4

「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」の改定に際して示された羅針盤を踏まえ、各大学がそれぞれのビジョンの下、適切な研究マネジメント体制を構築し、研究環境を持続的に向上できるよう、必要な仕組みなどを検討する必要があるのではないか。

5

併せて、振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、複数組織(領域)間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群(システム)を構築するなど、“我が国の研究大学群のあるべき姿”に向けて、必要な取組について議論してはどうか。

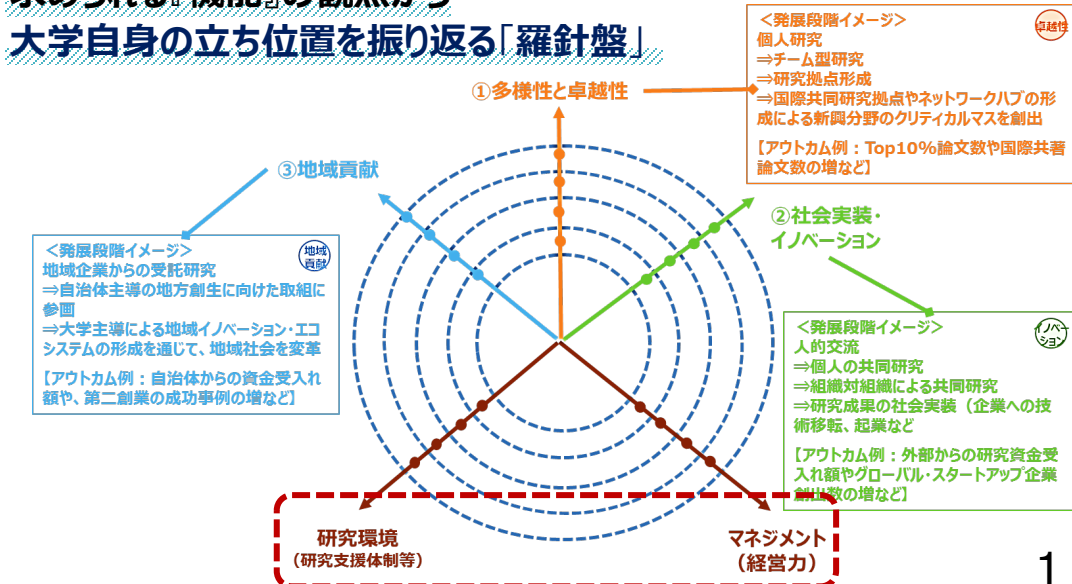
国際卓越研究大学の将来像 (イメージ)

大学ファンドによる支援を通じて、日本の大学が目指す将来の姿

- 世界最高水準の研究環境（待遇、研究設備、サポート体制等）で、世界トップクラスの人材が結集
- 英語と日本語を共通言語として、海外トップ大学と日常的に連携している世界標準的教育研究環境
- 授業料が免除され、生活費の支給も受け、思う存分、研究しながら、博士号を取得可能



求められる『機能』の観点から 大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」



4

「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」の改定に際して示された羅針盤を踏まえ、各大学がそれぞれのビジョンの下、適切な研究マネジメント体制を構築し、研究環境を持続的に向上できるよう、必要な仕組みなどを検討する必要があるのではないか。

5

併せて、振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、複数組織(領域)間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群(システム)を構築するなど、“我が国の研究大学群のあるべき姿”に向けて、必要な取組について議論してはどうか。

○「研究大学強化促進事業」の事後評価で効果が実証された取組や、「創発的研究支援事業」における研究環境改善の好事例に加え、「科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2022)」における大学研究力に関わる回答の状況や、「日本学術会議若手アカデミー」の提言等も踏まえ、**適切な研究マネジメント体制の構築や研究環境の持続的向上に向けた課題や方策等を議論**。

○“我が国の研究大学群のあるべき姿(研究大学100年構想)”に向けて、総合振興パッケージで示された「大学自身の取組の強化に向けた具体策」に**充実・追加すべき取組**や、**我が国全体の研究力向上を牽引する研究システム**をどのように構築していくか議論。

例. 流動性が高く、開かれた持続可能な研究環境
 知の基盤を底支えする高度専門人材を育む研究環境
 機動的な先行投資や安定的な業務運営の実現
 目標を明確にした自律型経営組織への転換
 多様で“厚み”のある研究大学群の形成

⇒ テニユアトラック制度の確立、独立支援の充実、挑戦を促進する制度 等
 ⇒ 研究者目線の環境改善、コアファシリティの拡充、中規模研究設備群の整備 等
 ⇒ 大学独自基金の造成、自主財源の確保、個々の研究者依存の脱却 等
 ⇒ 全学的な研究マネジメント体制の構築(URAや技術職員等を含む)、教職協働 等
 ⇒ 研究大学の備える要素の明確化、研究大学の状況・成長に合わせた支援の在り方 等

経済財政運営と改革の基本方針2023 (骨太の方針)



令和5年6月16日
 経済財政諮問会議・新しい資本主義実現会議
 合同会議

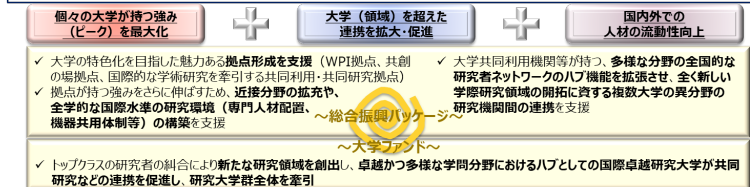
科学技術・イノベーションへの投資を通じ、社会課題を経済成長のエンジンへと転換し、持続的な成長を実現する。(中略)

イノベーションの持続的な創出に向け、国際的な競争環境下で、**多様で厚みのある研究大学群を形成**しつつ、世界最高水準の研究大学を実現する。我が国全体の研究力向上を牽引する**国際卓越研究大学の選定**を着実に進めるとともに、戦略的な自律経営が可能となるよう**必要な規制改革等を早期に実行**する。同大学と経営リソースの拡張・戦略的活用や研究者等のキャリア形成面を含め**相乗的・相補的に連携した車の両輪**として、**地域の中核・特色ある研究大学の多様なミッションの実現に向けた抜本的な機能強化**を図る。

イノベーションの源泉である優秀な若者が**博士を志す環境を実現**する。博士課程学生の処遇向上、挑戦的な研究に専念できる環境の確保、博士号取得者が産業界等を含め幅広く活躍できるキャリアパス整備等、魅力的な展望が描けるよう総合的な支援を一層強化する。(後略)

日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成 (研究大学に対する組織支援策の全体像)

□ 日本全体の大学の国際競争力を高めるには、総合振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、個々の大学の持つ強みを引き上げると同時に、複数組織(領域)間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群(システム)を構築することが必要



(参考) 第12回大学研究力強化委員会での主な御意見について

○流動性が高く開かれた持続可能な研究環境／知の基盤を底支えする高度専門人材を育む研究環境

- ✓ 博士課程学生のキャリアパスはひとつのポイント。博士のキャリアパスを意識した項目を公募事業に設定することや、特に私立大学には文系博士課程所属者も多いことから、そういったことを意識した観点も必要。
- ✓ 具体的な事例を示しながら、博士号取得ということが、単にアカデミアポジションのための選択肢ではなく、様々なキャリアのチャンスを得ることにつながるということを情報発信し続けることが重要。
- ✓ グローバルなコミュニティに触れていると、プレイヤーとしての日本の位置が相対的になくなっているという危機感を覚える。リサーチインテグリティやアメリカとやEUとのデータ取り扱いの違いなど。
- ✓ 研究者が研究する時間というのは最初から確保されていなければいけない。研究エフォートを確保すること、研究者は研究がジョブであることを体制で示すことが喫緊の課題。
- ✓ 行き過ぎた選択と集中で多様性を損なったり、まったく新しい視点の研究開発を阻害することが無いように、新しい研究を育てるという視点でバランスをとることが重要。
- ✓ 研究者の確保というところでは大学共同利用機関や工業高等専門学校との連携も欠かせない。
- ✓ 学部生や大学院生からでも活躍して、その中で切磋琢磨しながら総合知を持った博士人材に仕上げるということを大学側は踏み込んで取り組むべき。
- ✓ 共同利用・共同研究の制度及び共同利用機関法人との関係で、日本全体の研究力をどのようにあげていくのかについて議論しておくべき。

○機動的な先行投資や安定的な業務運営の実現／自立型経営組織への転換

- ✓ 日本の研究力を強化、あるいは地域の産業の創生という観点を考えたとき、地域中核大学と都道府県間の密接な関係が生ずるような施策や仕掛けが必要となる。
- ✓ 科学技術外交に関わるような活動支援が時限で行われて途切れるのではなく継続していくことで、グローバルな課題解決に日本が関わっていく、リーダーシップをとっていくことは非常に重要。

日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成

(研究大学に対する組織支援策※の全体像)

※ 博士人材や研究者個人・チームに対する支援策は別途あり

□ 日本全体の大学の国際競争力を高めるには、総合振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、個々の大学の持つ強みを引き上げると同時に、複数組織（領域）間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群（システム）を構築することが必要

個々の大学が持つ強み
(ピーク)を最大化



大学（領域）を超えた
連携を拡大・促進



国内外での
人材の流動性向上

- ✓ 大学の特色化を目指した魅力ある拠点形成を支援（WPI拠点、共創の場拠点、国際的な学術研究を牽引する共同利用・共同研究拠点）
- ✓ 拠点が持つ強みをさらに伸ばすため、近接分野の拡充や、全学的な国際水準の研究環境（専門人材配置、機器共用体制等）の構築を支援

- ✓ 大学共同利用機関等が持つ、多様な分野の全国的な研究者ネットワークのハブ機能を拡張させ、全く新しい学際研究領域の開拓に資する複数大学の異分野の研究機関間の連携を支援



- ✓ トップクラスの研究者の糾合により新たな研究領域を創出し、卓越かつ多様な学問分野におけるハブとしての国際卓越研究大学が共同研究などの連携を促進し、研究大学群全体を牽引

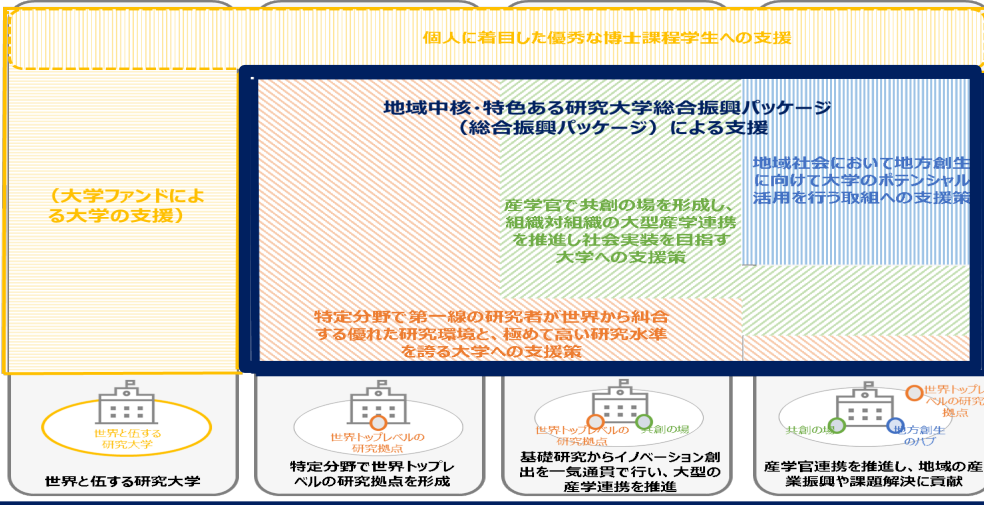


地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ (改定)

令和5年2月 総合科学技術・イノベーション会議決定

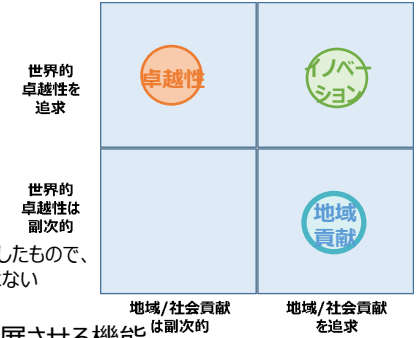
□ 目指す大学像

研究活動を核とした大学に求められる機能について、自らのミッションや特色に応じたポートフォリオを描きつつ戦略的に強化し、大学の力を向上させることで、新たな価値創造の源泉となる「知」と「人材」を創出、輩出し続ける大学



□ 大学に求められる機能

保持・強化することが期待される、研究活動に係る機能と、それに連動した高度人材育成に係る機能とを、「卓越性」と「地域・社会貢献」の観点から、3つの要素に分解



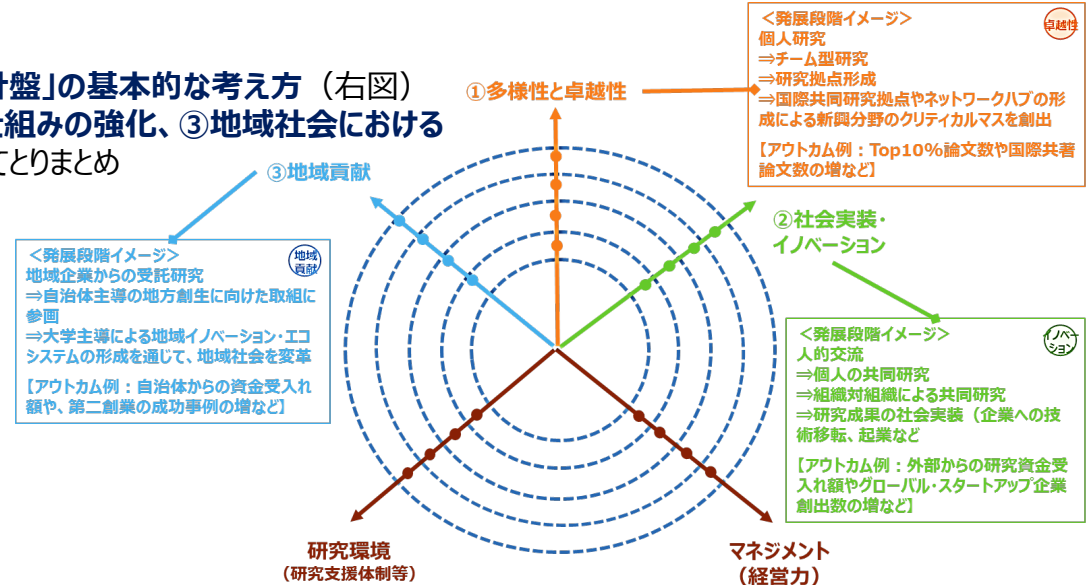
- ※象限毎に機能を分類したもので、それぞれの象限に優劣はない
- 卓越性**
 - 【研究】学術研究の多様性と卓越性を発展させる機能
 - 【人材】多様な専攻の博士課程を通じて、将来アカデミアを含めて社会で広く活躍し次代を切り拓く人材を養成する機能
 - イノベーション**
 - 【研究】地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能
 - 【人材】イノベーション創出を担う人材を養成する機能
 - 地域・社会貢献**
 - 【研究】地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能
 - 【人材】地域の中核となる知の拠点として、地域ニーズに対応した人材養成機能

□ 総合振興パッケージの狙い (目的)

求められる『機能』の観点から大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」の基本的な考え方 (右図) を示しつつ、各府省の事業等を①大学自身の取組の強化、②繋ぐ仕組みの強化、③地域社会における大学の活躍の促進 の3段階に整理して、1つの政策パッケージとしてとりまとめ

大学による、自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略に基づく、**選択的かつ、発展段階に応じた機能強化を加速**

地域の中核大学等が**地域社会の変革のみならず、我が国の産業競争力強化やグローバル課題の解決**に大きく貢献



経済財政運営と改革の基本方針2023 (骨太の方針)

科学技術・イノベーションへの投資を通じ、社会課題を経済成長のエンジンへと転換し、持続的な成長を実現する。(中略)

イノベーションの持続的な創出に向け、国際的な競争的環境下で、**多様で厚みのある研究大学群を形成**しつつ、世界最高水準の研究大学を実現する。我が国全体の研究力向上を牽引する**国際卓越研究大学の選定**を着実に進めるとともに、戦略的な自律経営が可能となるよう**必要な規制改革等を早期に実行**する。同大学と経営リソースの拡張・戦略的活用や研究者等のキャリア形成面を含め**相乗的・相補的に連携した車の両輪**として、**地域の中核・特色ある研究大学の多様なミッションの実現に向けた抜本的な機能強化**を図る。

イノベーションの源泉である優秀な若者が**博士を志す環境を実現**する。博士課程学生の処遇向上、挑戦的な研究に専念できる環境の確保、博士号取得者が産業界等を含め幅広く活躍できるキャリアパス整備等、魅力的な展望が描けるよう総合的な支援を一層強化する。(後略)

令和5年6月16日

経済財政諮問会議・新しい資本主義実現会議
合同会議

(参考) Jリーグ百年構想

- あなたの町に、緑の芝生におおわれた広場やスポーツ施設をつくること。
- サッカーに限らず、あなたがやりたい競技を楽しめるスポーツクラブをつくること。
- 「観る」「する」「参加する」。
スポーツを通して世代を超えた触れ合いの輪を広げること。



誰もが気軽にスポーツを楽しめるような環境が整ってはじめて、豊かなスポーツ文化は育まれます。そのためには、生活圏内にスポーツを楽しむ場が必要となります。

そこには、緑の芝生におおわれた広場やアリーナやクラブハウスがあります。

誰もが、年齢、体力、技能、目的に応じて、優れたコーチのもとで、好きなスポーツを楽しみます。「する」「見る」「支える」、スポーツの楽しみ方も人それぞれです。

世代を超えたふれあいの輪も広がります。

自分が住む町に「地域に根ざしたスポーツクラブ」があれば、こんなスポーツライフを誰もが楽しむことができます。

このような Jリーグの理念を分かりやすく訴求するために、Jリーグは「Jリーグ百年構想～スポーツで、もっと、幸せな国へ。」というスローガンを掲げ、「地域に根ざしたスポーツクラブ」を核としたスポーツ文化の振興活動に取り組んでいます。